ともにいきる

京都府立図書館

2024年11月29日（金）作成

CONNECT⇄

障害のある人もない人も、多様性や共生社会についてともに考える17日間
共生社会をテーマに、「ともにいきる」社会のヒントになる本を集めました

当事者と考える

世界を手で見る、耳で見る

堀越喜晴／著

毎日新聞出版　2022.5

視覚障害を抱える著者は、自身を「目で見ない族」と称します。
言語学者として大学で教鞭を執る中で、言葉や教育、「目で見る族」との
コミュニケーションについて綴るエッセイ。

大丈夫、私を生きる。

山川記代香／著

集英社　2023.7

度重なる手術、学校生活、就活、一人暮らし……
顔がうまく形成されない難病「トリーチャー・コリンズ症候群」に生まれた著者が、
自身の半生を振り返ります。

医療の外れで

木村映里／著

晶文社　2020.11

自身も精神疾患を抱えながら看護師として働く著者が、自身と周囲のエピソードをもとに、
医療から排除されやすい人々と医療従事者との関係を見つめるエッセイ兼啓発書。

- サイボーグになる　キムチョヨプ／[著]　岩波書店　2022.11
- みんなが手話で話した島　ノーラ・エレン・グロース／著　早川書房　2022.10
- わたしはASD女子　シエナ・カステロン／著　さくら舎　2021.12
- きらめく拍手の音　イギルボラ／著　リトルモア　2020.12
- 病と障害と、傍らにあった本。　齋藤陽道／著　里山社　2020.10
- 当事者に聞く自立生活という暮らしのかたち　河本のぞみ／著　三輪書店　2020.3
- ALSを生きる　谷川彰英／著　東京書籍　2020.3
- 障害社会学という視座　榊原賢二郎／編著　新曜社　2019.9
- 発達障害の人が働くときに知っておきたい10の基本　宮尾益知／著　河出書房新社　2019.7
- ほんのちょっと当事者　青山ゆみこ／著　ミシマ社　2019.12
- 合理的配慮　川島聡／著　有斐閣　2016.7
- 目の見えない人は世界をどう見ているのか　伊藤 亜紗／著　光文社　2015.4
- 京都養老院物語　同和園／[編]　同和園　2015.3
- 大聖堂　レイモンド・カーヴァー／著　中央公論新社　2007.3

わたしたちと社会

社会制度、文化、家族、地域、世代差などなど、社会を見つめる様々な視点を紹介します。

居場所を考える

コミュニティの取り組みやまちづくりの例から、「ひらかれた場所」を考えます。

世界のひとと考える

様々なバックグラウンドを持つ人が日本に暮らしています。
「文化の違い」だけでは説明できない実態とは？

ケアを考える

医療の現場や家庭の中で日々行われるケアに、改めて向き合う本を集めました。

当事者と考える

障害や病気の当事者と周囲の声を取り上げた本です。
今日、障害の概念は「障害は人ではなく社会にある」とする社会モデルへと変化しています。

世界は「見えない境界線」でできている

マキシム・サムソン／著
染田屋茂／訳　杉田真／訳
かんき出版　2024.6

地形、歴史、言語といった、国境線ではない世界の「境界」を紐解きます。

様々な分野の専門家が大学生に贈る入門書です。
はじめの一歩に。

共生社会学入門
多様性を認めるソーシャル・インクルージョンをめざして

小山望／編者代表　福村出版　2024.3

私の身体を生きる

島本理生／著　他
文藝春秋　2024.5

17人のリレーエッセイ。
自分自身でありながら、自分のものではないような
「私」の身体に向き合います。

- 「社会」の底には何があるか　菊谷和宏／著　講談社　2024.8
- <弱いロボット>から考える　岡田美智男／著　岩波書店　2024.8
- 家族、この不条理な脚本　キムジヘ／著　大月書店　2024.7
- アイヌがまなざす　石原真衣／著　岩波書店　2024.6
- ヒトの幸福とはなにか　養老孟司／著　筑摩書房　2023.11
- 左利きの言い分　大路直哉／著　PHP研究所　2023.9
- 文学は地球を想像する　結城正美／著　岩波書店　2023.9
- #Z世代的価値観　竹田ダニエル／著　講談社　2023.9
- 消齢化社会　博報堂生活総合研究所／著　集英社インターナショナル　2023.8
- 1973年に生まれて　速水健朗／著　東京書籍　2023.7
- アバターと共生する未来社会　石黒浩／著　集英社　2023.6

わたしが誰かわからない　ヤングケアラーを探す旅

中村佑子／著
医学書院　2023.11

精神疾患を抱える家族に付き添ってきた著者が、当事者として自分自身のこと、
出会った女性たちのことを語ります。
ヤングケアラーの内的時間を記した一冊です。

家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった

岸田奈美／著　小学館　2020.9

「100文字で済むことを2000文字で書く」作家が、
車いすの母、知的障害のある弟との日常を綴ります。
今年TVドラマ化されました。

発達障害のある子を守るお金と法律の話

宮尾益知／監修
河出書房新社　2024.6

発達障害のある子どものための福祉サービス、お金、医療費の補助など、
様々な支援と仕組みをライフステージごとに紹介します。

- HIVとともに生きる　大島岳／著　青弓社　2023.11
- 知的障害・自閉の人たちと「かかわり」の社会学　三井さよ／著　生活書院　2023.10
- ユニバーサル・ミュージアムへのいざない　広瀬浩二郎／著　三元社　2023.10
- うつ病ダイバーシティ　小林聡幸／著　金原出版　2023.9
- 読書バリアフリーの世界　野口武悟／著　三和書籍　2023.7
- くもをさがす　西加奈子／著　河出書房新社　2023.4
- 自閉症が文化をつくる　竹中均／著　世界思想社　2023.3
- デザインと障害が出会うとき　Graham Pullin／著　オライリー・ジャパン　2022.3
- 社会を変えるスタートアップ　小野貴也／著　光文社　2023.1
- 異彩を、放て。　松田文登／著　新潮社　2022.10
- だれも私たちに「失格の烙印」を押すことはできない　キムウォニョン／著　小学館　2022.12

居場所を考える

バザールカフェ
ばらばらだけど共に生きる場をつくる
狭間明日実／著　他
学芸出版社　2024.7

京都市営地下鉄今出川駅から徒歩3分。
「LGBTQ、依存症、HIV陽性、外国籍…異なる現実を生きる人々が出会い、変わっていくこと。
変わらなくても生きられる社会をつくること」を目指すカフェの活動記録。

- 公民館を再発明する　牧野篤／著　東京大学出版会　2024.5
- ニューヨークのパブリックスペース・ムーブメント　中島直人／編著　学芸出版社　2024.1
- 居場所のなさを旅しよう　磯前順一／著　世界思想社　2023.11
- 私たちはいつから「孤独」になったのか　フェイ・バウンド・アルバーティ／[著]　みすず書房　2023.11
- あの公園のベンチには、なぜ仕切りがあるのか?　森達也／編著　論創社　2023.11
- つくる<公共>50のコンセプト　せんだいメディアテーク／編　岩波書店　2023.2
- 社会の変え方　泉房穂／著　ライツ社　2023.1
- 地域主権という希望　岸本聡子／著　大月書店　2023.1
- 孤独と居場所の社会学　阿比留久美／著　大和書房　2022.11

世界の人と考える

日本に導かれた運命
隣に住む、隣で働く外国人との真の多文化共生をめざして
よぎ／著　白水社　2024.2

日本でサラリーマン、区議を経て、現在公立高校の校長を務める
インド出身の著者が、日本に暮らす外国人と共生の未来を探ります。

- 観光消滅　佐滝剛弘／著　中央公論新社　2024.9
- 文化はいかに情動をつくるのか　バチャ・メスキータ／著　紀伊国屋書店　2024.9
- 日本のアタリマエを変える学校たち　有澤和歌子／編著　新評論　2024.7
- それはわたしが外国人だから?　安田菜津紀／著　ヘウレーカ　2024.4
- 関西華僑の生活史　神阪京華僑口述記録研究会／編　松籟社　2024.3
- 大学生がレイシズムに向き合って考えてみた　貴堂嘉之／監修　明石書店　2023.11
- 移民の子どもの隣に座る　玉置太郎／著　朝日新聞出版　2023.10
- ウトロ・強制立ち退きとの闘い　斎藤正樹／著　東信堂　2022.4
- 五色のメビウス　信濃毎日新聞社／編　明石書店　2022.3
- ルポコロナ禍の移民たち　室橋裕和／著　明石書店　2021.12

ケアを考える

61歳で大学教授やめて、
北海道で「へき地のお医者さん」はじめました
香山リカ／著
集英社クリエイティブ　2024.2

精神科医の著者が住み慣れた東京を離れ、北海道の「へき地」で総合診療医に！
自身の半生を振り返りつつ、この大きな転機を語ります。
医療の在り方や人生を見つめる一冊です。

ケアの倫理　フェミニズムの政治思想
岡野八代／著
岩波書店　2024.1

あらゆる人が必要とするケア。
家庭内で女性たちが担ってきたケアの歴史を紐解き、
その意義や価値を改めて問います。

- ケアするラジオ　金山智子／編　さいはて社　2024.3
- ケアする対話　横道誠／著　金剛出版　2024.3
- それでも私は介護の仕事を続けていく　六車由実／著　KADOKAWA　2023.9
- 認知症700万人時代　鈴木雅人／著　かもがわ出版　2023.7
- 最強のケアチームをつくる　中迎聡子／著　円窓社　2023.6

やさしい日本語の時代に、やさしい介護のことばを
遠藤織枝／著　ひつじ書房　2024.5

「褥瘡」「嚥下」「側臥位」読めますか？
外国人労働者に日本語を教えてきた著者が、介護や医療現場の
難解な専門用語を「やさしい日本語」に変えようと提唱します。

- 認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック　今中雄一／編著　学芸出版社　2023.3
- 公衆衛生の倫理学　玉手慎太郎／著　筑摩書房　2022.12
- 「自分らしく生きて死ぬ」ことがなぜ、難しいのか　野村晋／著　光文社　2020.3
- ケアマネジャーはらはら日記　岸山真理子／著　三五館シンシャ　2021.7

当事者と考える

あらゆることは今起こる

柴崎友香／著

医学書院　2024.5

自分の感覚と他者の感覚は絶対に違っている、だからこそ知りたい──。
ADHDと診断された小説家の著者が、自身の身体と日常について綴ります。

障害の家と自由な身体　リハビリとアートを巡る7つの対話

大崎晴地／編、池上高志／[ほか著]

晶文社　2023.8

プロジェクト「障害の家」の活動記録。
健常者目線のバリアフリーではなく、障害そのものを建築的に問い直します。

読めない人が「読む」世界

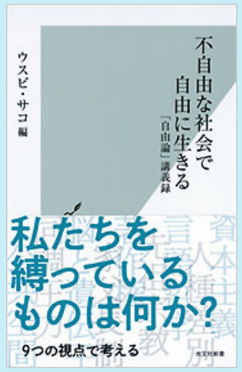
マシュー・ルベリー／著　他

原書房　2024.3

難読症や失読症、認知症の人々は文字をどのように読んでいるのか。
歴史を紐解き、脳や神経（ニューロ）の多様性（ダイバーシティ）を考えます。

- 祖害者たちが生きる時代を問う　堀利和／編著　社会評論社　2024.7
- 誰のためのアクセシビリティ？　田中みゆき／著　リトルモア　2024.7
- 加害者にさせないために　石野英司／監著　晃洋書房　2024.7
- ルポ「ふつう」という檻　信濃毎日新聞社編集局／著　岩波書店　2024.7
- 病院の子どもにも「保育」を　石井悠／著　ひとなる書房　2024.7
- 自閉スペクトラム症の人たちが生きる新しい世界　デヴォン・プライス／著　翔泳社　2024.7
- 失語症の人と話そう　言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会和音／編集　中央法規出版　2024.6
- アクセシブルブックはじめのいっぽ　宮田和樹／著　ボイジャー　2024.5
- 能力で人を分けなくなる日　最首悟／著　創元社　2024.4
- 創作者の体感世界　横道誠／著　光文社　2024.2
- 内にある声と遠い声　鶴見俊輔／著　青土社　2024.2
- 知的障害者と「わかりやすい選挙」　堀川諭／著　生活書院　2024.1

不自由な社会で自由に生きる　「自由論」講義録



ウスビ・サコ／編　光文社新書　2023.8

マリ共和国出身の京都精華大学学長による講義録。
宗教、性別、芸術…身の回りにある「不自由」を見つめ、自由を掴む方法とは？

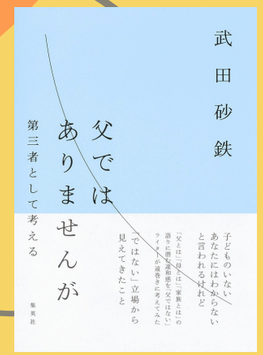
なぜあの人と分かり合えないのか

中村隆文／著

講談社　2024.2

商業主義、個人主義、競争社会、ルッキズム等々、
日常を取り巻く問題に気づき、「公共」について考えるための一冊です。

父ではありませんが



武田砂鉄／著

集英社　2023.1

父親「ではない」著者が、「第三者という当事者」として
家族や親子、子どもについて語ることとは。

- おひとりさまの逆襲　上野千鶴子／著　ビジネス社　2023.5
- インクルーシブ社会の障害学入門　水内豊和／著　ジアース教育新社　2023.4
- 「良かったこと探し」から始めるアクセシブル社会　星川安之／著　小学館　2023.4
- 聞く技術聞いてもらう技術　東畑開人／著　筑摩書房　2022.10
- 格差と分断の社会地図　石井光太／著　日本実業出版社　2021.9
- 共感という病　永井陽右／著　かんき出版　2021.7
- 多様性との対話　岩渕功一／編著　青弓社　2021.3
- ユニバーサルデザインの基礎と実践
  日本福祉のまちづくり学会身体と空間特別研究委員会／編　鹿島出版会　2020.10
- 海をあげる　上間陽子／著　筑摩書房　2020.10
- ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー　ブレイディみかこ／著　新潮社　2019.6
- 窓ぎわのトットちゃん　黒柳 徹子／著　講談社　1981.3
- あおくんときいろちゃん　レオ・レオ-ニ／作　至光社　1981